



高橋教授の

# この人に 会いたい

Vol.41

ゲスト  
**永塚慎一** 氏  
一般社団法人Nフラワーデザイン  
インターナショナル代表理事

一般社団法人Nフラワーデザインインターナショナルの永塚慎一代表理事は、数々のフラワーデザインコンテストで優勝経験をもつほか、海外の著名人が来日した際の式典で飾る花をデザインするなど、フラワーデザイン界の第一人者として知られる。一方で動画の発信を手がけるほか、新型コロナウイルス禍ではオンライン講座も開講するなど、従来の枠組みにとどまらない活動の幅広さも注目される。そんな永塚代表理事に高橋泰・国際医療福祉大学教授が直撃した。



永塚慎一氏提供

## フラワーデザインに生け花技術を注入 オンライン講座や海外展開にも着手

フラワーデザインと  
生け花の世界を行き来

**高橋** 永塚さんはフラワーデザインの数々の競技会で成績を残しているフラワーデザインの第一人者として知られますが、実は私の妻のフラワーデザインの師匠でもあります。どのようないきさつでフ

ラワーデザイナーの道に入ったのですか。

**永塚** もとは生け花からこの世界に入りました。20歳で大和生花店に就職し、しばらくして競技会に出ようとした時に、競技会はフラワーデザインと関係していることが多く、それでフラワーデザインにかかわるようになったのです。

**高橋** 生け花は中国や日本、フラワーデザインは西欧で発祥したという違いはわかりますが、他に大きく異なる点はどのようなことがありますか。

**永塚** 今は相互に技術や考え方を取り入れるようになっていきますから、そこまで大きな違いはないと思います。一花を止める道具のの違いは大きいですね。生け花が剣山や七宝を用いるのに対してフラワーデザインはフォームという吸水性スポンジのようなものを使います。このため生け花が1点で止めるのに対し、フラワーデザインはフォームの特性から、面で止めるイメージになります。これももともと空間の使い方が変わってきます。



**高橋** 永塚さんの作品はフラワーデザインであるにもかかわらず、生け花のような空間の使い方をしている印象を受けます。

**永塚** Nフラワーデザインインターナショナルは生け花とフラワーデザインの融合をめざしています。通常フラワーデザインで生け花で見られるような空間の使い方をするのと試みると、どうしても野暮ったくなるのです。それを解消しようというのが一つのテーマです。

**高橋** 他にはどんな違いがありますか。

**永塚** 生け花には「折りだめ」という技術があるように、折っていないものは折って使うという考え方が基本的にあります。これに対してフラワーデザインは折らずにワイヤーなどを添えて曲げるのが一般的です。最初にフラワーデザインの競技会に出場したときに折りだめの技術を使い、自分で見てもかなりの出来映えの作品に仕上がったのですが、審査員は認めてくれませんでした。理由は「折れているから」。怒って「あなた方は折りだめも知らないのか」と抗議したものです(笑)。

### フラワーデザインに「空間の技術」を

**高橋** まさに生け花とフラワーデザインの文化の狭間で活躍されてきたわけですね。そのお立場から、フラワーデザイン界をどう見ますか。

**永塚** もっとフラワーデザインの世界に「ジャポニズム」を押し出

撮影=安西美樹



高橋

手取り足取り教えることはできないけれど、それを補って余りある効果があるのですね

すべきと考えています。今は休会中ですが、フラワーデザインの世界大会がありました。日本代表も毎年参加していたのですが、なかなか勝てない。その理由はジャポニズムを押し出した選手がいないからだと思っています。一方で海外では生け花の技術を取り込もうとしています。

「空間の技術」は日本の生け花独特のもので、海外の人ははすぐ欲しがります。日本人は壊れたもののなかに美を見出すセンスを備えています。たとえばイングリッシュガーデンと日本庭園の違いをイメージしていただきたいのですが、前者が左右対称に作るのに対して、後者はかならず非対称です。つまり、どこかを壊し、壊れたものを美しく見せることができる。海外の人たちはこれを何とか身につけようとするけれど、ど



日本人は壊れたもののなかに美を見出すセンスを備えています——永塚

## 高橋 泰

Tai Takahashi  
国際医療福祉大学教授  
たかはし・たい ●1986年、金沢大学医学部卒業。同年、東京大学病院第1第3第2内科・麻酔科で研修。92年、同大学医学部医学系大学院医学博士課程修了（医学博士）後、米国スタンフォード大学に留学。94年、ハーバード大学公衆衛生校に武見フェローとして留学。97年4月、国際医療福祉大学医療福祉学部医療経営管理学科教授。2016年9月より安倍内閣未来投資会議の構造改革徹底推進会合医療福祉部門副会長。

高橋 先ほどベストセラーのお話がありました。永塚さんはテレビ出演や女性向けファッション誌の連載などをもつほか、YouTube動画も手がけるなど、フラワーデザイン界以外への発信に

### 動画作成や海外展開にも着手

が、オンラインで受講している生徒さんのほうがはるかに上達しています。私が代表理事を務めるNフラワーデザインインターナショナルは全国35支部を展開し、日本には約300人の会員がいます。オンライン講座の生徒さんを含めると、さらに多くなります。教えられる生徒さんが増えるのもメリットです。

高橋 既存の枠組みにとらわれずいろいろな世界に飛び出しているのです。ますますのご活躍が期待されます。本日はありがとうございました。

## 永塚慎一

Shinichi Nagatsuka  
一般社団法人Nフラワーデザイン  
インターナショナル代表理事

ながつか・しんいち ●神奈川県横須賀市生まれ。20歳のときに大和生花店に入社。横浜市認定優秀技能者。農林水産大臣賞2回、県知事賞多数受賞。グライ・ラマ法皇来日式典、WAF世界大会、ニューヨークフィルハーモニー来日演奏会など国際的イベントで会場装飾を多数手がけ、NFD大賞審査委員なども務める。一般社団法人Nフラワーデザインインターナショナルの代表としてフラワースクールを全国展開している。

うしても出来上がった形で見せられないのです。試みてもうわべだけになるので、見る者に訴えかけてきません。

高橋 そうは言っても海外からも教えを乞う人たちは多いでしょう。どう指導しているのですか。

永塚 アウトラインに気をつけるよう指導することはよくあります。アウトラインを花で構成すると無機質な出来上がりになるので、花でなく葉や枝、あるいはつぼみの先など細いものを添えるのと、アウトラインに動きが出て柔らかく見えるのです。うちの会員に大学の名誉教授がいるのですが、その先生に「永塚先生の言う『アウトライン』は『ライン』というより『アクセントライン』ですね」と指摘されたことがあります。

### オンラインのほうが生徒は上達する

高橋 ところで、新型コロナ禍もあってオンライン講座を開いているそうですね。指導するにも、これまででは目の前で三次元の作品を見ていたのが、二次元になるわけ、違いは出てくると思います。いかがですか。

永塚 オンライン講座は今年から始めたのですが、当初は生徒さんに正面、上、後ろ、左右から写真を撮って送ってもらい、それを見て指導していました。しかし、今は正面の写真を見るだけで全部理解できるようになりました。1回教えてしまうと、その人の癖がわかるので、正面の写真を見れば「後ろはこうなっているだろう」と想像できるのです。見る側が慣れるというか、進化しているのを感じ

も積極的です。

永塚 動画を始めたのは実は8年前なのですが、テレビでは制作意図に縛られて自分の訴えたいことが伝えられないと考えたことが背景にあります。ただ始めた当時は10分間限定で、しかも編集作業はわからないので、その長さに合わせるように話し、失敗したら撮り直しという手づくり作業でした。われながらよくやったなと思いますが、テレビ局での苦い思い出が原動力になりました。

高橋 海外にも進出しています。

永塚 ベトナム、韓国、マレーシア、台湾、タイ、アメリカ、オーストラリア、メキシコで支部を立ち上げていますが、特に成功しているのがメキシコです。子どもたちが嬉々としながら花をデザインしている様子は日本では見られない光景で、とてもうれしくなります。